

3 2025年に目指すべき医療提供体制の方向性

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、伊勢志摩区域については、平成27(2015)年から平成37(2025)年の10年間で27,000人の人口減が見込まれています。その後は5年ごとに約13,000~14,000人の人口減が見込まれています。

また、65歳以上75歳未満人口は平成27(2015)年頃をピークに、75歳以上人口は平成42(2030)年頃をピークに、その後減少していくことが見込まれています。

以上により、当該区域の医療需要は概ね減少していくことが予想されます。

このような中、平成26(2014)年病床機能報告の状況からは、伊勢志摩区域については回復期機能の一層の充実が求められるといえます。

- 伊勢赤十字病院については、伊勢志摩区域だけでなく全県的な見地からの高度急性期機能や急性期機能を担うことが期待されるのではないかと。また、回復期機能を一定程度確保することを検討してはどうか。
- 市立伊勢総合病院については、一定程度の急性期機能を担うほか、将来にわたり回復期機能の充実を図っていくことにより、患者が住み慣れた地域で療養生活を行うことができる体制の構築を検討してはどうか。また、在宅患者の急性増悪時の受入も担うこととしてはどうか。
併せて、伊勢赤十字病院と市立伊勢総合病院との相互の人的交流を通じて、診療上の連携を強化しながら、当該区域における医療従事者のキャリアアップを支援する方策を検討することも重要といえるのではないかと。
- 県立志摩病院については、伊勢赤十字病院等との連携を前提としつつ、地勢的に一定程度の急性期機能を担うことが求められるのではないかと。さらに、回復期機能又は慢性期機能の充実を図ることも期待されるのではないかと。

上記の詳細及びその他の病床を有する医療機関の機能については、将来にわたる人口動態等を踏まえながら、地域医療構想調整会議において引き続き検討していくこととします。